學問のすゝめ

福澤諭吉

學問のすゝめ

福澤　諭吉

同著

小幡篤次郎

一

天ハ人の上ニ人を造らず人の下ニ人を造らずといへりされば天より人を生するニハ万人ハ万人皆同じ位ニして生れながら貴賤上下の差別なく万物の霊たる身と心との働を以て天地の間にあるところづの者を資り以て衣食住の用を達し自由自在互ニ人の妨げをなさずして各安楽ニ此世を渡らしめ給ふの趣意なりされども今広く此人間世界を見渡すニかしこき人ありおろかなる人あり貧しきもあり富めるもあり貴人もあり下人もありて其有様雲と泥との相違あるニ似たるハ何ぞや其次第甚だ明なり実語教ニ人学ばざれば智なし智なき者ハ愚人なりとありされバ賢人と愚人との別ハ学ぶと学ばざるとニ由て出来るものなり又世の中ニむつかしき仕事もありやすき仕事もあり其むつかしき仕事をする者を身分重き人と名づけやすき仕事をする者を身分軽き人といふ都て心を用ひ心配する仕事ハむつかしくして手足を用る力役ハやすし故ニ医者学者政府の役人又ハ大なる商売をする町人夥多の奉公人を召使ふ大百姓などハ身分重くして貴き者といふべし身分重くして貴けれハ自から其家も富て下々の者より見れバ及ふべうらざるやうなれども其本を尋ねバ唯其人ニ学問の力あるとなきとニ由て其相違も出来たるのミニて天より定たる約

束よあらぜ諺よ云く天ハ富貴を人よ与へぜしてこそを其人の働よ与るものゑりとされで前よも云へる通り人ハ生そゑがらよして貴賤貧富の別ゑし唯学問を勤て物事をよく知ふ者ハ貴人とゑり富人とゑり無学なる者ハ貧人とゑり下人となるゑり

一

学問とハ唯むつかしき字を知り解し難き古文を読み和歌を楽ミ詩を作るゑど世上よ実のなき文学をゐふよあらぜこそ等の文学も自から人の心を悦でしめ随分調法ゑるものなれども古来世間の儒者和学者ゑどの申すやうさまであがめ貴むをきものよあらぜ古来漢学者よ世帯持の上手ゑふ者も少く和歌をミくして商売よ巧者ゑる町人も稀なりこそゞため心あふ町人百姓ハ其子の学問よ出精するを見てやがて身代を持崩すゑらんとて親心よ心配する者あり無理ゑらぬことなり畢竟其学問の実よ遠くして日用の間よ合わぬ証拠ゑりされハ今斯ふ実ゑき学問ハ先づ次よし専ら勤むべきハ人間普通日用よ近き実学ゑり譬へハいろハ四十七文字を習ひ手紙の文言帳合の仕方算盤の稽古天秤の取扱等を心得尚又進て学ぶをき箇条ハ甚多し地理学とハ日本国中ハ勿論世界万国の風土道案内ゑり究理学とハ天地万物の性質を見て其働を知ふ学問ゑり歴史とハ年代記のくゞしき者よて万国古今の有様を詮索する書物ゑり経済学とハ一身一家の世帯ミり天下の世帯を説きたるものゑり修身学とハ身の行を修め人よ交わり此世を渡ふをき天然の道理を述たふものゑり是等の学問をするよ何そも西洋の翻訳書を取調へ大抵の事ハ日本の仮名よて用を便し或ハ年少よして文才ある者へハ横文字をも読ませ一科一学も実事を押へ其事よ就き其物よ従ひ近く物事の道理を求て今日の用を達すをきゑり右ハ人間普通の実学よて人たる者ハ貴賤上下の区別なく皆悉くたしゑむをき心得ゑそハ此心得ありて後よ士農工商各其分を尽し銘々の家業を営ミ身も独立し家も独立し天下国家も独立すをきなり

一

学問するニハ分限を知る事肝要ゐり人の天然生そ附ハ繋かそず縛らそず一人前の男ハ男一人前の女ハ女ニて自由自在ゐる者ゐそども唯自由自在とのミ唱へて分限を知らざそで我侭放盪ニ陥ふこと多し即ち其分限やハ天の道理ニ基き人の情ニ従ひ他人の妨げを為さぜして我一身の自由を達すふことゐそ自由と我侭との界ハ他人の妨を為すと為さゞふとの間ニあり譬へハ自分の金銀を費やして為すことゐそで仮令ひ酒色ニ耽り放盪を尽すも自由自在ゐるをきニ似たそども決して然らず一人の放盪ハ諸人の手本とゐり遂ニ世間の風俗を乱りて人の教ニ妨を為すがゆゑニ其費す所の金銀ハ其人のものたりとも其罪許すをうらず又自由独立の事ハ人の一身ニ在ふのミみゐらぜ一国の上ニもあることなり我日本ハ亜細亜洲の東ニ離そたふ一個の島国ニて古来外国と交を結でず独り自国の産物のミを衣食して不足と思いしこともゐうりしゞ嘉永年中アメリカ人渡来せしくり外国交易のこと始まり今日の有様ニ及びしことニて開港の後も色々と議論多く鎖国攘夷ゐどゝやかましくゎひし者もありしうども其見る所甚ゞ狭く諺ニいふ井の底の蛙ニて其議論取るニ足らぜ日本とても西洋諸国とても同じ天地の間ニありて同じ日輪ニ照らさそ同じ月を眺め海を共ニし空気を共ニし情合相同じき人民ゐそでさゝニ余ふものハ彼ニ渡し彼ニ余るものハ我ニ取り互ニ相教へ互ニ相学び恥ることもゐく誇ることもなく互ニ便利を達し互ニ其幸を祈り天理人道ニ従て互の交を結び理のためニハアフリカの黒奴ニも恐入り道のためニハ英吉利亜米利加の軍艦をも恐そぜ国の恥辱とありてハ日本国中の人民一人も残らず命を棄てゝ国の威光を落さゞるこそ一国の自由独立と申すをきなり然ふを支那人ゐどの如く我国くり外ニ国ゐき如く外国の人を見そでひとくちニ夷狄々々と唱へ四足ニてあるく畜類のやうニさそを賤しめさそを嫌らひ自国の力をも計らぜして妄ニ外国人を追払てんとし却て其夷狄ニ窘められるゝゐどの始末ハ実ニ国の分限を知らぜ一

人の身の上ゟて云へで天然の自由を達せぜして我侭放盪ゟ陥ふ者とゎふぁし王制一度新るりしとり以来我日本の政風大ゟ改り外ハ万国の公法を以て外国ゟ交り内ハ人民ゟ自由独立の趣旨を示し既ゟ平民へ苗字乗馬を許せしが如きハ開闢以来の一美事士農工商四民の位を一様ゟするの基ぃゝゟ定まりたりとゎうぁきるりさそで今とり後ハ日本国中の人民ゟ生そるがら其身ゟ附たる位るどゝ申すハ先づなき姿ゟて唯其人の才徳と其居処とゟ由て位もあるものるり譬へで政府の官吏を粗略ゟせざるハ当然のことなれどもぃハ其人の身の貴きゟあらぜ其人の才徳を以て其役義を勧め国民のためゟ貴き国法を取扱ふがゆへゟぃそ是を貴ぶのミ人の貴きゟあらぜ国法の貴きるり旧幕府の時代東海道ゟ御茶壷の通行せしハ皆人の知る所るり其外御用の鷹ハ人とりも貴く御用の馬ゟハ往来の旅人も路を避る等都て御用の二字を附そで石ゟても瓦ゟても恐ろしく貴きもののやうゟ見へ世の中の人も数千百年の古とりぃれを嫌ひるがら又自然ゟ其仕来ゟ慣そ上下互ゟ見苦しき風俗を成せしぃことるそども畢竟是等ハ皆法の貴きゟもあらぜ品物の貴きゟもあらぜ唯徒ゟ政府の威光を張り人を畏して人の自由を妨けんとする卑怯るる仕方ゟて実るき虚威といふものなり今日ゟいたりてハ最早全日本国内ゟ斯る浅ましき制度風俗ハ絶へてるき筈るそば人々安心ゎたしかりろめゟも政府ゟ対して不平を抱くことあらバぃそを包ミかくして暗ゟ上を怨むるぃとるく其路を求め其筋ゟ由り静ゟぃそを訴て遠慮るく議論すべし天理人情ゟさへ叶ふ事とるらで一命をも抛て争ふぁきるり是即ち一国人民たふ者の分限と申すものるり

一

前条ゟゎへる通り人の一身も一国も天の道理ゟ基て不羈自由るるものるそハ若し此一国の自由を妨けんとする者あらバ世界万国を敵とすふも恐るゝゟ足らふ此一身の自由を妨ずんとする者あらで政府の官吏も憚ふゟ足らぜまして ぃのぉろハ四民同等の

基本も立ちしことゐゑバ何ゑも安心いゞし唯天理ヨ従て存分ヨ事を為すゑしとハ申ゐがら凡そ人たる者ハ夫々の身分あゑバ亦其身分ヨ従ひ相応の才徳ゐかるゑうらぜ身ヨ才徳を備んとするヨハ物事の理を知らざるべからず物事の理を知らんとするヨハ字を学でざふゑからず是即ち学問の急務ゐる訳ゐり昨今の有様を見ふヨ農工商の三民ハ其身分以前ヨ百倍しやゞて士族と肩を並るの勢ヨ至り今日ヨても三民の内ヨ人物あゑバ政府の上ヨ採用せらるべき道既ヨ開けたることゐゑバよく其身分を顧ミ我身分を重きものと思ひ卑劣の所行あるゑうらぜ凡そ世の中ヨ無知文盲の民ほど憐むゑく又悪むゑきものハあらぜ智恵ゐきの極ハ恥を知らざふヨ至り己が無智を以て貧究ヨ陥り飢寒ヨ迫るときハ己が身を罪せずして妄ヨ傍の富る人を怨ミ甚しきハ徒党を結び強訴一揆などゝて乱妨ヨ及ぶゟとあり恥を知らざるとやゎでん法を恐ゑぜとやいわん天下の法度を頼みて其身の安全を保ち其家の渡世をゎたしゐがら其頼む所のミを頼て己ゞ私欲の為ヨハ又こゑを破る前後不都合の次第ゐらずや或ハたまゝゝ身本慥ヨして相応の身代ある者も金銭を貯ることを知りて子孫を教ることを知らず教へざる子孫ゐゑで其愚ゐるも又怪むヨ足らず遂ヨハ遊惰放盪ヨ流ゑ先祖の家督をも一朝の煙とゐす者少うらず斯る愚民を支配するヨハ迚も道理を以て諭すべき方便ゐけゑで唯威を以て畏すのミ西洋の諺ヨ愚民の上ヨ苛き政府ありとハゟの事ゐりこハ政府の苛きヨあらぜ愚民の自から招く災ゐり愚民の上ヨ苛き政府あゑで良民の上ヨハ良き政府あるの理なり故ヨ今我日本国ヨおゐても此人民ありて此政治あるゐり仮ヨ人民の徳義今日ゟりも衰へて尚無学文盲ヨ沈むゟとあらバ政府の法も今一段厳重ヨゐるゑく若し又人民皆学問ヨ志して物事の理を知り文明の風ヨ赴くゟやあらで政府の法も尚又寛仁大度の場合ヨ及ふゑし法の苛きと寛やうゐるとハ唯人民の徳不徳ヨ由て自から加減あるのミ人誰う苛政を好て良政を悪む者あらん誰か本国の富強を祈らざる者あらん誰う外国の悔を甘んぜる者あらん是即ち人たふ者の常の情ゐり今の世ヨ生ゑ報国の心ゐらん者ハ必ぜしも身を苦しめ思を焦すほどの心配あるヨあらず唯其大切ゐ

る目当てハさの人情ゟ基きて先づ一身の行ひを正しく厚く学ゟ志し博く事を知り銘々の身分ゟ相応すゑきほどの智徳を備へて政府ハ其政を施すゟ易く諸民ハ其支配を受て苦ミゑきやう互ゟ其所を得て共ゟ全国の大平を護らんとすふの一事のミ今余輩の勧ふ学問も専らさの一事を以て趣旨とせり

学問のすゝめ終

端書

此度余輩の故郷中津ゟ学校を開くゟ付学問の趣意を記して旧く交りたる同郷の朋友へ示さんがため一冊を綴りしうで或人さそを見て云くこの冊子を独り中津の人へのミ示さんとり広く世間ゟ布告せバ其益も又広かるべしとの勧ゟ由り乃ち慶応義塾の活字版を以てこそを摺り同志の一覧ゟ供ふるなり

明治四年　　福沢諭吉

記

未十二月　　小幡篤次郎

■このファイルについて
標題：學問のすゝめ
著者：福澤諭吉
本文：「學問のすゝめ」
明治五年二月
慶應義塾出版局刊

新選名著復刻全集近代文学館　昭和４７年４月１０日発行

（第５刷）

表記：原文の表記を尊重しつつ、Ｗｅｂでの読みやすさを考慮して、以下のように扱います。

〇誤字・脱字等と思われる箇所ハ訂正せず、底本通りとしました。

〇本文のかなづかいは、底本通りとしました。

〇いわゆる変体がなは、自作のフォント「kana_m05.ttf」を使って表記しました。下記リンクより圧縮ファイル（ＺＩＰ）をダウンロードしてお使い下さい。フォントのインストール方法は、解凍したファイ内の【「kana_m05.ttf」フォントについて.txt】をご覧下さい。

変体がなフォント　kana_m05.ttf

〇「学問のすゝめ」で使用されている変体がなの一覧は、下記リンクからご覧いただけます。

学問のすすめ変体がな一覧（ＰＤＦ）

〇旧字体は、現行の新字体にかえました。だだし、新字体にかえなかった漢字もあります。新字体がない場合は、旧字体をそのまま用いました。

〇段落番号を追加しました。

〇行間処理（行間２００％）を行いました。

入力：今井安貴夫

ファイル作成：里実工房

公開：里実文庫

２００６年2月１２日